

乳児期からの外用治療と治療初期の浸出症状を経て学校生活が安定した小児アトピーの経過 (10 歳 女児)

症例 ID：001-10-SH4 | 記録日：2017 年 1 月 15 日

1. 診断・治療前経過

生後 2 か月頃から湿疹が出て、ステロイドと亜鉛華軟膏を使用しました。1 歳 3 か月頃には多くの食物項目で反応があり、外用薬と抗アレルギー薬が増えました。

1 歳 6 か月頃から約 3 年間、ステロイドを使用しない医療機関で抗アレルギー薬などを服用しましたが、皮膚症状は続きました。4 歳 4 か月頃に喘息も出たため治療を開始しました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	乳児期からステロイド外用薬を使用しました。抗アレルギー薬、かゆみ止めの内服歴もあります。
製品名	不明です。
強度	時期により使用量が増えましたが、詳細は不明です。
使用期間	生後 2 か月頃から 1 歳 6 か月頃までです。
中止時期	1 歳 6 か月頃です。
来院前／後	来院前に使用歴があります。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
生後 2 か月頃	発症	湿疹が出て、ステロイドと亜鉛華軟膏による治療を始めました。
1 歳 3 か月頃	治療増加	多くの食物項目で反応があり、外用薬と内服薬が増えました。
4 歳 4 か月	治療開始	喘息を伴う状態で松本医院の治療を開始しました。
開始 1～3 日	夜間症状	深夜に強いかゆみが続き、家族もほとんど眠れませんでした。
開始 4～6 日	浸出期	腕と脚の関節部から出血と浸出液が出ました。
開始 6～13 日	軽減	浸出液と創部が少しずつ減りました。
開始 2 か月	変化	腕の皮膚が整い始め、喘息も出にくくなりました。
開始約 3 年	経過中	夜間のかゆみは続きましたが、湿疹と喘息はほぼみられなくなりました。
10 歳時	経過後	湿疹はほとんどなく、給食、プールを含む学校生活を送っていました。

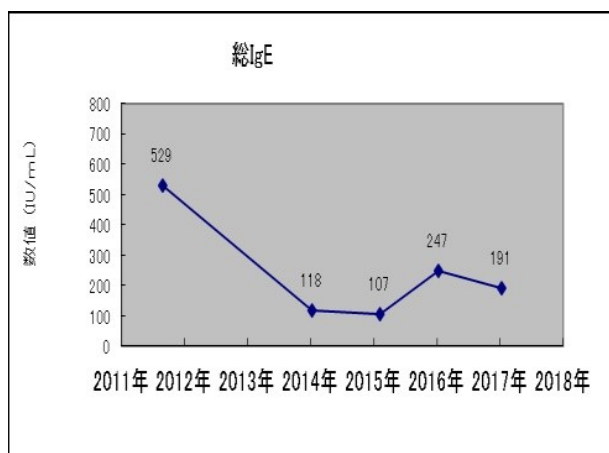
4. ピーク時期

ピークは、治療開始 4～6 日頃に夜間の強いかゆみが続き、腕と脚の関節部から出血と浸出液がみられた時期です。

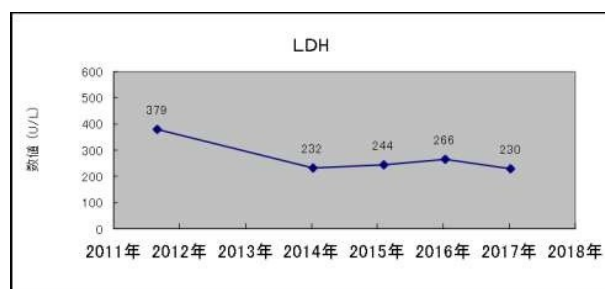
5. 困りごと

- ・夜間のかゆみへの対応で、本人と家族の睡眠が妨げられました。
- ・関節部の掻き傷、出血、浸出液に対する外用処置が必要でした。
- ・湿疹と喘息の両方に対する長期治療が必要でした。

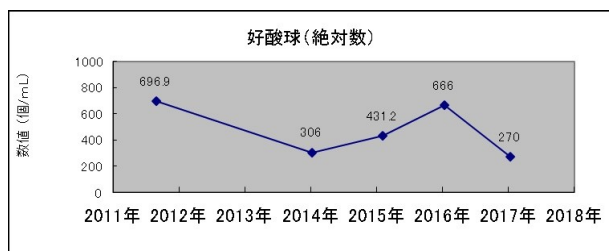
6. 検査値・写真・画像 ※治療前後の比較ではなく、経過中にみられた症状や検査値の記録として掲載しています。



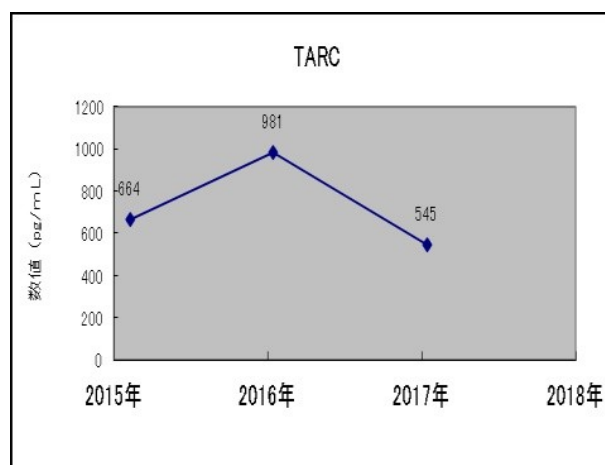
総 IgE の推移。



LDH の推移。



好酸球数の推移。



TARC の推移。

7. 経過のまとめ

治療開始約3年後には湿疹と喘息がほぼみられなくなり、小学校では給食やプールを含む生活を送れるようになりました。10歳時には湿疹はほとんどなく、乳と卵以外の食物では反応がみられない状態となりました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。